

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972300129		
法人名	有限会社サンコーポレーション		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原750		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成23年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、市の中心地に近く、事業所の前には川が流れ、対岸には森や神社が見え四季の変化を楽しむ事が出来る。事業所は平屋のバリアフリーの建物で、同じ敷地内に小規模老人ホームやカルチャー教室があり、イベントなどで交流を図っている。
 事業所内でもスケッチ画教室・英会話教室・お抹茶教室などを開催している。食事は新鮮な食材を使った栄養バランスの良い手作りの料理を提供し、利用者の楽しみの一つになっている。事業所内で飼っている小型犬も良く慣れていて利用者を和ませている。家族のようなアットホームな雰囲気の中で利用者が生き生きと楽しくその人らしく有意義な余生を送れるように職員全員で取り組んでいる。ご家族様が希望される時には、主治医・訪問看護の協力を得て看取りのケアまで実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かなロケーションにあり、施設内もゆったりとした空間で利用者は「家族のように」接する職員と日々を送っている。季節の野菜をたっぷり使った食事はとても美味しく、食べる楽しみを満喫している。管理者は利用者に好みや味付けの感想を聞き、より良い、より充実した食事の提供を図っている。1時間ごとに立ってトイレに行く排泄支援が利用者の気持ちに「排泄の自立」を促し、結果として歩行に繋がった利用者もいる。日々清潔な環境での暮らし、美味しい食事、レベルダウンを防ぐ工夫がなされた支援、「楽しい余生を送って頂きたい」という職員の思いは利用者の明るい表情からも感じられる。また管理者の豊かな人脈もあって、地域との連携もしっかりとれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日々の仕事の中で職員と密に理念を確認しつつ、実践に向けて取り組んでいる。	「明るい笑顔と温かい介護」をモットーに利用者としっかりコミュニケーションを取り意向を聞きながら地域の中での生活を管理者と職員は話し合い相談しながら、家族のような気持ちで介護している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地域の福祉大会やボランティアの会合や祭り等に参加して入居者と共に地域の一員として交流を深めている。	利用者は様々な地元のお祭りを楽しんでいる。ホームの夏祭りは多くのボランティアの協力を得て盛大に行われ地域の人の楽しみにもなっている。近隣の人が野菜を持って来たり、遊びがてら寄って話をしていくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の行事等に地域の方々に広く参加していただき、現状を理解し支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	家族の方・市の職員・消防署・社会福祉協議会・老人会・自治会・民生委員と会議を行い施設サービス向上につとめている。	運営推進会議の年6回開催を目指し市役所・社協・消防・自治会関係・家族の参加を得て開催されたが、ホームの事業報告や現況報告が主になっている。	運営推進会議においてホームが抱える課題や外部評価から見える課題を発信し、一緒に考えてもらう人に参加を呼び掛け広くから知恵を借りると共に推進会議の活用法や開催日の設定を工夫し活発に話し合いが行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者と常に連絡を取り合い情報交換を行い、お互いが信頼と協力関係を維持できる様につとめている。	行政には常に足を運びホームの「ひまわり便り」を届けたり、実情を報告し相談にも乗ってもらうなどして、市の担当課との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を全職員が理解した上で、常に細かく目配りして、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	運営規定に身体拘束排除を謳い職員は研修を受け実践しているが、現在医療的な面からリスクの考えられる利用者があり、家族と話し合い抑圧感の無い方法を探りながら改善を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、定期的に勉強会を行い日常生活を見直し虐待防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、施設職員に勉強会を実施し、理解を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に不安や疑問を感じさせないように、事前説明を十分に行い、利用者や家族等からの質問には理解・納得が図れるよう丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が利用者や家族と常にコミュニケーションをとるようにつとめ、意見を聞くようにし、運営に反映させている。	家族の来所時には常に話をしている。その中で出された看取りの要望を受け終末期のケアを実施することになり、家族から聞き取った利用者の生活歴等を職員間で話し合いケアに反映させた。	自発的には家族からの声が余り上がってこないようである。コンタクトの少ない家族もあり声掛けや対応方法を工夫してみる等アプローチの仕方をもう少し工夫されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常日頃から施設運営等について問題が生じた場合はリアルタイムに職員の意見を聞くような体制にしている。	日頃管理者も介護に接しており職員と一緒に仕事をする中で、コミュニケーションを図り、職員の気づきやアイデアを受け実際のケアに反映させている。また、行事後の職員の慰労会も利用して生の声を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力・実績・勤務状況を把握し、職員と意見交換し、各自が向上心を持って働ける様、明るい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は各種研修に参加し、講師をまねき、ケアの向上が行えるように内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、各種大会や会合にも積極的に参加し、情報交換や勉強会にも参加してサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に慣れるまでコミュニケーションをきめ細かくとり、本人の思い、困り事に対して耳を傾け、納得するまで話を聞き取る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入所をしてもらい、家族が納得した上で、入居してもらうことにしている。家族の困り事・要望に耳を傾け、受け入れ体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人と家族の希望をしっかりと組みとるようにつとめ、幅広い支援の方法をとるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族の一員として接して生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係が保てるように、面会時間を一応もっているが、家族の意向で自由に面会の機会を持っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた本人の愛用品を居室に持ち込んでいただくようにしている。馴染みの場所に、一緒に外出し(墓、旧家等)本人の思いを尊重できるよう支援に努めている。	利用者の希望でエステや美容院に出かける、お墓参りに行く、家のお仏壇にお参りする等、一人ひとりが大事にしているこだわりを把握し、支援につなげている。利用者の思いに従い電話を掛けたり手紙を書くといった支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、日中、リビングの円たくで、全員と一緒に過ごし、お互いが支え合うアットホームの環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内のイベントの参加や近くに出かけた時には立ち寄る等をして経過をフォローできる関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活(会話の)中から、本人の希望等の把握に努め、また家族の意向も取り入れるように努めている。出来るだけその人らしく過ごせるように努めている。	センター方式を取り入れ利用者の言葉や表情等から意向や思いを把握するようにしている。利用者も自分の意見をしっかりと言えるので、引っ込み思案にならない雰囲気作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から今までの生活環境や暮らし方を十分に聞き取り、今後の生活に反映できるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭にいる時のような本人に出来る事を積極的に参加してもらい、本人の持っている力を生かせるようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を十分に聞いた上で、管理者と職員が意見交換を行い、本人や家族の意見を出来る限り取り入れ、利用者本位の計画になるように努めている。	介護計画は6ヶ月を基本に見直しを行っている。訪問時に家族の意見を聞き、日頃の関わりの中で利用者の思いや意向を受け止め、管理者と職員で話し合い、それらを反映させる計画を作成している。また、計画は、家族に個別に説明し了解をえている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に出来る限り詳細に記入し、職員間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りケアを含め、本人や家族の状況ニーズに対応できるように訪問看護を含め柔軟な支援・サービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベント等に積極的に参加し、本人が心豊かに安心して暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時にも対応してくれるかかりつけ医に、定期的に往診してもらっている。その他医療機関を受診するときは職員が付き添い早期受診をこころがけている。	月2回内科の協力医の往診が行われ、緊急時にも対応してもらっている。また、医療機関受診の際は基本的に職員が同行し、利用者の状況の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者や看護師が常に訪問看護師に相談出来る状況にあるので、利用者が看取りを含め適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に入院できる病院を確保し利用者が施設と入院できる連携病院を確保し、利用者が入院されても、洗濯や見舞いに訪れ、病状の変化を確認・病院関係者と情報交換・相談を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人や家族の意向を十分に聞き、主治医や訪問看護師との協力も得て、看取りを行えるように取り組んでいる。	終末期に向けての方針を明文化し、職員で話し合い、看取り支援の体制を整え2回の看取りを行った。家族・医師も交え家族の意向を最優先に進め、ホームとしては「家族のように」愛情を持って利用者へ接し、終末期を支えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えてマニュアルを作り、勉強会を実施し、事故発生時に実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、全館スプリンクラーを設置し、災害時の避難訓練は、消防署の指導を受け訓練をしている。	近々火災報知器と119番通報が連動するシステムを導入する予定である。火災報知器、消火器、緊急通報装置とH23年3月にスプリンクラーも設置が済み、避難訓練は消防署の指導の下年2回実施されている。非常食も備蓄している。	夜間対応、協力者参加の訓練やシュミレーション、利用者の安全な避難を図るべく近隣協力者の開拓等を今後の訓練計画に組み入れることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないように言葉かけに配慮している。トイレの誘導時にもさりげない言葉かけを行うようにしている。	援助に入る際にも利用者の尊厳を大切に考えている。居室の入り口にかけてられたカーテンも扉が開いていても直接中が見えないようにとの配慮からで、プライバシー確保の姿勢がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者が常にコミュニケーションを取り、本人の意見を言いやすい環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員だけでなく、利用者の意見を取り入れ、一人ひとりのペースを尊重し、その日の過ごし方を聞き入れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に利用者が清潔・身ざれいである様に心がけ散髪・エステ・衣類の調整を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者より献立の希望を聞くようにし、利用者が食事の準備や片付けに参加出来るように心がけている。	ホームは「美味しく食べることを大事に考え食事は全て手作りで利用者、家族にも美味しいと好評である。近隣からのいただき物や自作の旬の野菜を多く取り入れた献立はカロリーを抑えているが量も種類も十分あり、利用者は残すことなくしっかり食べ「食べることを楽しんでいる。又、調理の下準備や下膳に持てる力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一時間毎に水分摂取を行い、多種の食材を使いバランスのとれたバラエティに富んだ食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一時間毎にトイレ誘導を行い、失禁やおむつの使用を減らせるように支援している。	昼間はリハビリパンツとパットを使用し、1時間ごとのトイレ誘導を行っている。失禁を減らす目的もあるが同時に椅子から立ち上がって歩くリハビリも兼ねた支援になっている。夜間はベッドサイドにポータブルトイレが置かれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事摂取と適度の運動水分摂取を促し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯はあらかじめ決められているが、体調や本人希望に合わせて時間や入浴方法の変更(足浴等)を実施している。	午後のレクリエーションに合わせて週3回午前中に入浴を実施している。脱衣に抵抗感のある利用者もいるが、その気持ちを理解し言葉掛けなど対応を工夫し入浴に繋げている。浴室は清潔で掃除が行き届いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後や体調に合わせて短時間の休憩時間をつくり夜間は安眠ができるよう個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録を作成し、職員が常日頃からノートに目を通し、注意点を確認している。食後の服薬を確認し、症状の変化の確認につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内犬の世話・洗濯たたみ、料理や食器洗いの手伝い・掃除の手伝い等その人に応じてできる事をしてもらえよう役割分担をしている。あやとり・お手玉・百人一首・大正琴・俳句・唱歌等の時間も設け、生きがいもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を出来る限り聞き、又、家族にも相談し買い物や美容院等への外出の機会を増やすようにしている。	日頃は近所への散歩や買い物、畑に出る等で気分転換を図り、お花見や栗拾い等で季節を楽しみ、時には芝居小屋へ観劇や外食に行ったりと、「出かけること」を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には季節の花々を飾り、壁には入居者の描いた絵や書、写真を掲示している。また室内犬を飼い、家族の一員としてアットホームな雰囲気作りを心掛け、利用者にとって心和む空間作りをしている。	室温を26度に設定し、リビングは常に癒しや季節の音楽、また童謡や唱歌が流れており、生活の中で上手に音楽を活用している。照明もその時々で細やかに調節し、ゆったり落ち着ける環境作りに努めている。また、特に「清潔に」を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な中にもプライバシーの保てるように、応接セットやホームこたつ等を置きゆったりとすごせる居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や持ち物・仏壇等を持ち込んでもらっている。個々に応じたのれんと手作りのネームプレートを部屋の入り口に掛けて自分の部屋に愛着を持ってもらい、心地よく過ごせるように工夫している。	収納スペースも十分なクローゼット、ベッドが各部屋に備え付けられている。仏壇や写真、ダンスを始めとして大事にしているものが持ち込まれそれぞれの住まいを造っている。お仏壇の花にも気を配り利用者の気持ちに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをたくさん設置し杖・手すり歩行し出来るだけ安全で自立した生活を送れるように工夫している。		